

## ホームページのご案内

当社のホームページでも詳しい情報を同時に開示  
しております。ぜひ併せてご覧ください。



サイトトップ



IR情報トップ



財務・業績情報

<https://www.ikic.co.jp/>

アイエックス・ナレッジ

検索

アイエックス・ナレッジ株式会社

〒108-0022 東京都港区海岸3-22-23

TEL.03-6400-7000 (代表)

FAX.03-6400-7900

# REPORT

## 第41期株主通信

2018年4月1日～2019年3月31日

To the next stage

20<sup>th</sup>  
Anniversary

## TOP MESSAGE

社会に求められる企業として存続し、  
豊かな未来づくりに貢献してまいります。

代表取締役社長

安藤 文男



— ご挨拶 —

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに「第41期株主通信」をお届けし、2018年度の事業報告とともに今後の展開についてご説明いたします。ご一読の上、当社事業へのご理解を深めていただければ誠に幸いに存じます。

## 当期(2018年度)の概況

主力事業の好調に加え、システムマネージメントサービスも売上を伸ばし、増収・大幅増益を達成。

情報サービス市場は、企業収益の回復を背景にIT投資が堅調を維持し、特にクラウドコンピューティングやIoT、AI等の技術を活用した効率化・省人化によるビジネス変革の動きが拡がりを見せています。

3か年にわたる中期経営方針「IKI VISION2020」の2年目を迎えた当社は、柱として掲げる「中核事業の拡大」「次期成長事業の創出」「事業基盤の強化」の実現を目指し、情報サービス市場のニーズを捉えた高付加価値の提供を通じて、業績の拡大を図りました。

重点施策としては、第三者検証サービスの拡販や車載組込システム開発分野の強化に向けて、経営資源を集中する一方、ブロックチェーン技術を産業分野に適用するための顧客との共同研究、社内コミュニケーションツールの実証実験など、新たな成長への取り組みに注力しました。同時に、働き方改革や業務改善を推進し、より強固な企業体質づくりに努めました。

その結果、主力のコンサルティング及びシステム・インテグレーション・サービスは、大手事業者向け案件が好調に推移し、システムマネジメントサービスも運用設計案件の受注や基盤・環境構築案件への対応強化により売上を伸ばすことができました。利益面では、増収効果に加えて「事業の選択と集中」による効率改善も寄与し、大幅な増益を確保しました。

以上により当期の業績は、売上高17,761百万円(前期比6.6%増)、営業利益823百万円(同26.7%

増)、経常利益879百万円(同26.9%増)、当期純利益586百万円(同26.1%増)となりました。

## 次期(2019年度)の方針と見通し

既存事業の中長期的な拡大を図りながら、  
市場の動向を的確に捉え、  
新たな成長事業を創出。

今後の情報サービス市場を展望すると、企業のIT投資については、引き続き堅調な増加が見込めるものと思われれます。そのなかで新たな方向性として、企業の価値創出や競争優位の確立に向けたデジタルトランスフォーメーション(DX)へのシフトが注目され、さらなる市場拡大への期待が高まっています。

当社は、既存事業の中長期的な拡大を図りながら、こうした市場の動向を的確に捉え、オープンイノベーションを通じて他社製品・サービスを活用するビジネススキームの構築や、デジタル先端技術を活用したソリューションサービスの提供など、顧客ニーズの多様化に応える新たな成長事業を創出してまいります。

次期の重点施策を述べますと、コンサルティング及びシステム・インテグレーション・サービスは、金融・証券分野において証券・生損保・資産運用の各案件獲得に注力しつつ、情報・通信分野に強みをもつ第三者検証サービスの拡大と他分野への水平展開を推進し、産業・サービス分野では、需要増加が見込まれる車載組込システム開発への対応を強化します。また、注力案件へのリソース集中に加えて、プロジェクト管理を徹底し、売上高の拡大と利益の確保に努めてまいります。システムマネジメントサービ

スは、収益性の高い運用設計や基盤構築案件の拡大を図ります。

以上を前提に、次期の業績は、売上高18,014百万円(当期比1.4%増)、営業利益840百万円(同2.0%増)、経常利益879百万円(同0.0%増)、当期純利益591百万円(同0.9%増)を見込んでいます。

## 株主の皆様へのメッセージ

会社誕生20周年を迎え、  
株主の皆様への感謝を込めて、  
今回の期末配当にて記念配当を実施。

おかげさまで当社は、2019年10月に前身会社2社の合併による会社誕生から20周年を迎えます。これまで当社の発展を支えていただいた株主の皆様への感謝を込め、今回の期末配当において会社誕生20周年記念配当を実施し、1株当たり20円(普通配当同10円+記念配当同10円)とさせていただきます。

なお、次期の期末配当については、1株当たり15円を予定しています。

私たちは、引き続き、中期経営方針の3本柱である「中核事業の拡大」「次期成長事業の創出」「事業基盤の強化」の各テーマを着実に遂行し、その取り組みを成果につなげていきます。そして、2020年度以降の飛躍に向けた土台を築き上げるべく、人材の確保・育成、技術研鑽及び財務体質強化を推し進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、豊かな未来づくりに貢献する当社事業の今後にご期待いただき、長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 中期経営計画と重点取り組みポイント

### ● 企業理念

私たちは情報サービスを通じ  
人と社会の豊かさに貢献する

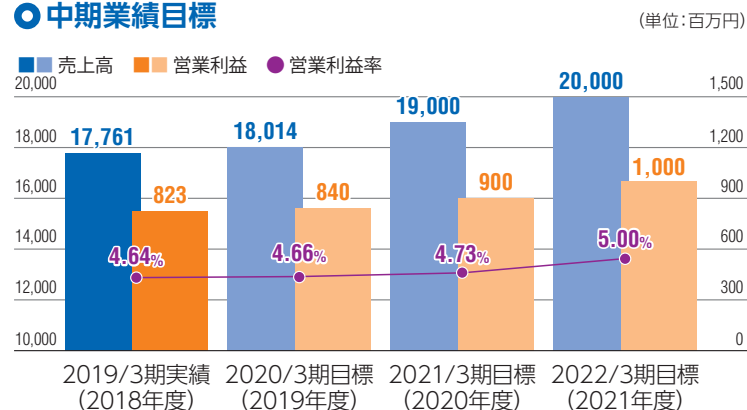
### ● 中期経営方針

しっかりとしたモノ（システム）づくりと  
高品質なサービスを提供することで、  
すべてのステークホルダーから選ばれる企業になる  
というビジョンの下、

- 中核事業の拡大
- 次期成長事業の創出
- 事業基盤の強化

を、5～10年後を見据えた中期経営方針と位置付け、  
中期経営計画を策定いたしました。

### ● 中期業績目標



## 中期経営計画での4つの重点取り組みポイント

### 営業体制強化

- プロダクトや販路を意識した戦略的営業活動の実践
- 営業情報の見える化・共有化による営業プロセスの確立

### 案件対応力の強化

- 中長期的視点でのパートナー企業との連携による人的リソース拡大
- 新技術に対応できる人材の教育・育成

### 開発体制の強化

- プロジェクトモニタリングの強化
- 原価管理の徹底
- 開発ツールの導入等による開発効率の向上

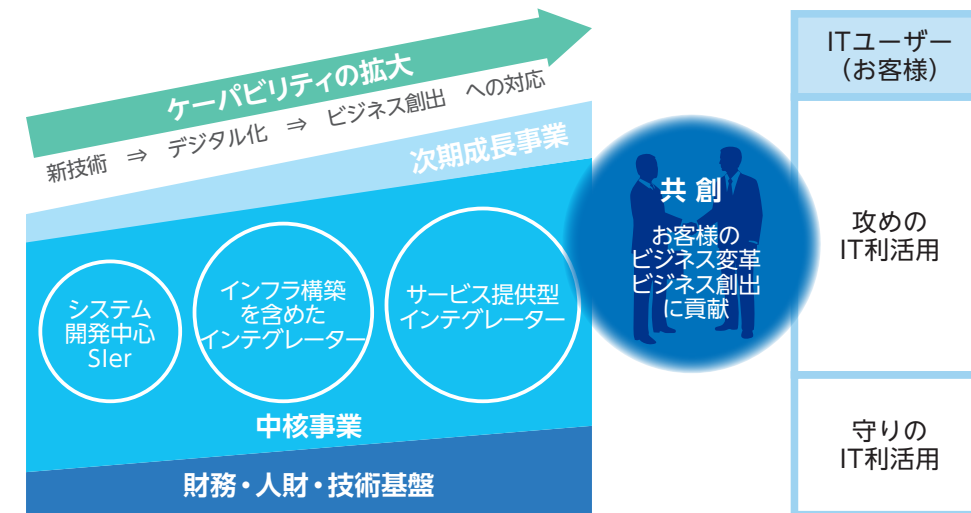
### デジタル化への対応

- お客様のニーズに応える技術基盤強化
- 他社との連携によるケーパビリティ強化
- 将来の中核技術となるデジタル先端技術を活用したソリューションサービスの創出

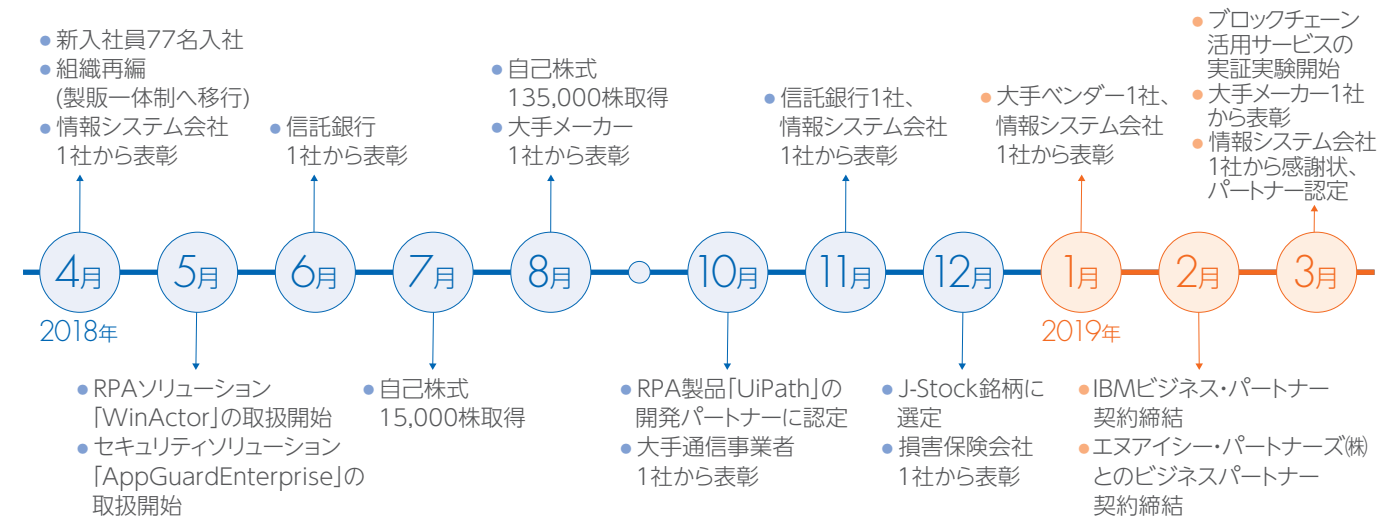
## IKI成長イメージ ケーパビリティの拡大からお客様との「共創」へ

お客様の多様化するニーズに対応するため、当社の提供するサービス領域や、それを支える人材・技術・財務能力、すなわちケーパビリティの拡大を図ってまいります。

また、それにより、お客様のビジネス変革やビジネス創出に寄与し、さらにはお客様との「共創」へと、当社の担う役割を拡大してまいります。



## TOPICS 2018年度のトピックス

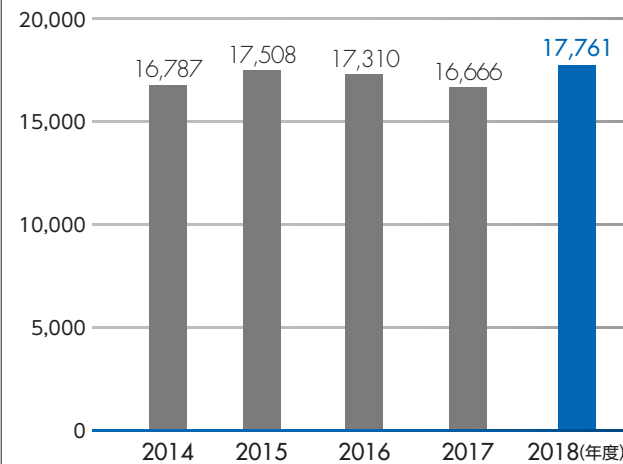




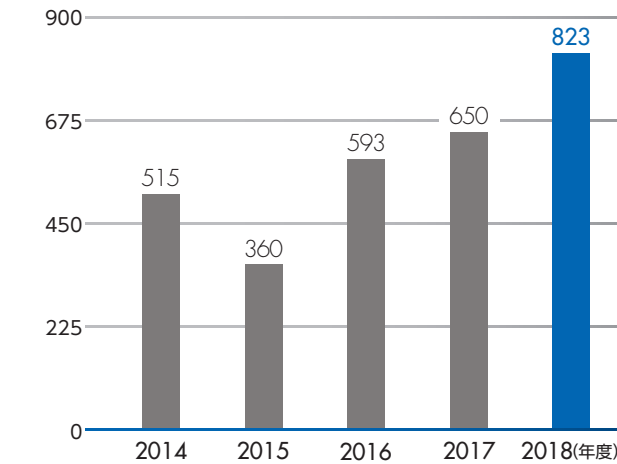
## 業績ハイライト

(単位:百万円)

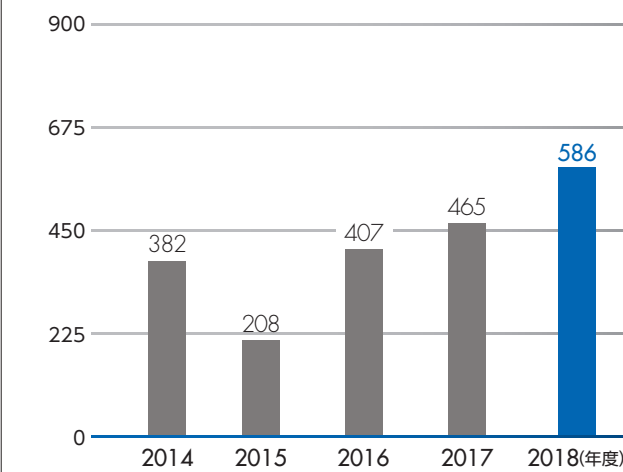
### 売上高



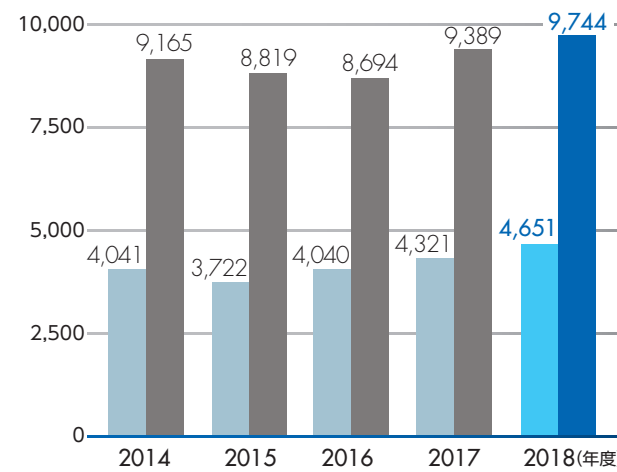
### 営業利益



### 当期純利益

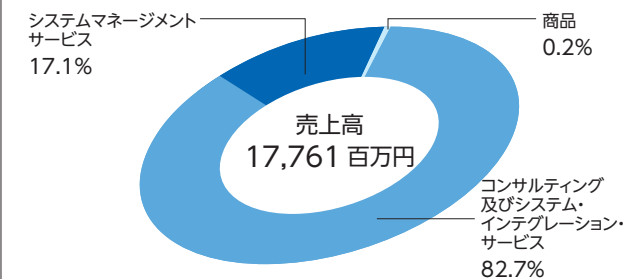


### 純資産・総資産



## セグメント情報

### 品目別売上高比率



### コンサルティング及びシステム・インテグレーション・サービス

大手通信事業者向けのシステム検証案件、大手飲料事業者向けシステム再構築案件及び大手重工業メーカー向け開発案件などが順調に推移した結果、当サービスの売上高は14,688百万円(前期比3.7%増)となりました。

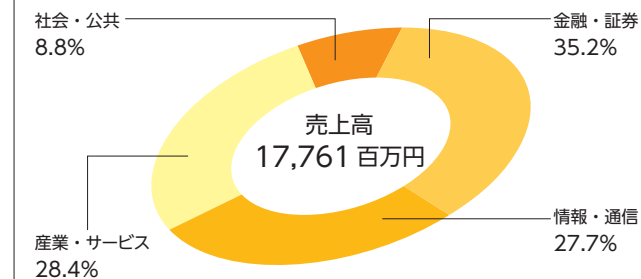
### システムマネジメントサービス

運用設計案件受注への取り組みや基盤・環境構築案件に対応する技術者の育成などが奏功し、売上高は3,032百万円(前期比23.9%増)となりました。

### 商品

商品販売の売上高につきましては、40百万円(前期比22.1%減)となりました。

### エンドユーザー業種別売上高比率



### 金融・証券

資産運用系の開発案件が拡大したものの、メガバンク向け次期システム開発案件収束の影響により、売上高は6,248百万円(前期比3.1%減)となりました。

### 情報・通信

大手通信会社の基幹システム更改向け第三者検証サービスの受注拡大により、売上高は大幅に増加し、4,916百万円(前期比20.1%増)となりました。

### 産業・サービス

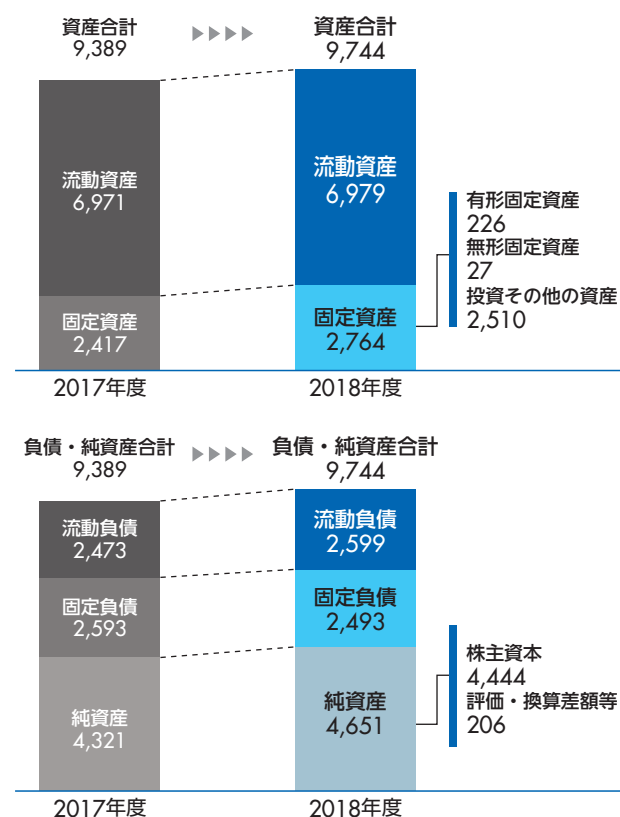
車載組込システム開発案件に加え、大手飲料メーカーや大手重工業メーカー向けの開発案件の拡大により、売上高は5,035百万円(前期比8.9%増)となりました。

### 社会・公共

公益団体向けのシステムマネジメントサービスが拡大し、売上高は1,560百万円(前期比4.1%増)となりました。

## 貸借対照表

(単位:百万円)



## ポイント解説

当期末の資産合計は9,744百万円となり、前事業年度末に比べ355百万円増加しました。これは主に「現金及び預金」の減少411百万円、「投資有価証券」の増加363百万円、「有価証券」の増加200百万円、「仕掛品」の増加108百万円、「売掛金」の増加105百万円によるものであります。

当期末の負債合計は5,093百万円となり、前事業年度末に比べ26百万円増加しました。これは主に「1年内返済予定の長期借入金」の減少60百万円、「未払消費税等」の増加49百万円、「賞与引当金」の増加45百万円によるものであります。

当期末の純資産合計は4,651百万円となり、前事業年度末に比べ29百万円増加しました。これは主に「利益剰余金」の増加485百万円、「自己株式」の増加131百万円によるものであります。

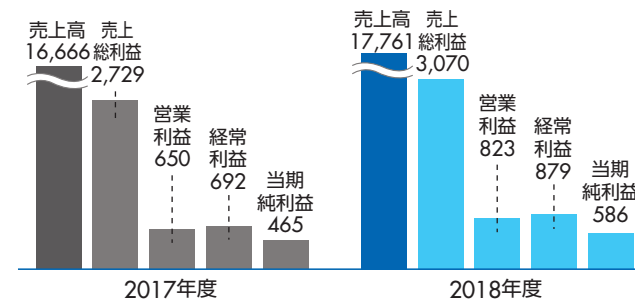
この結果、自己資本比率は、47.7%となりました。

科目	2018年度 2019年3月31日現在	2017年度 2018年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	6,979	6,971
固定資産	2,764	2,417
資産合計	9,744	9,389
<b>負債の部</b>		
流動負債	2,599	2,473
固定負債	2,493	2,593
負債合計	5,093	5,067
<b>純資産の部</b>		
株主資本	4,444	4,090
評価・換算差額等	206	230
純資産合計	4,651	4,321
負債・純資産合計	9,744	9,389

## 損益計算書

(単位:百万円)

科目	2018年度 2018年4月1日から 2019年3月31日まで	2017年度 2017年4月1日から 2018年3月31日まで
売上高	17,761	16,666
売上原価	14,691	13,937
売上総利益	3,070	2,729
販売費及び一般管理費	2,246	2,079
営業利益	823	650
営業外収益	58	45
営業外費用	2	2
経常利益	879	692
特別利益	0	0
特別損失	6	0
税引前当期純利益	874	692
法人税、住民税及び事業税	287	239
法人税等調整額	0	△12
当期純利益	586	465



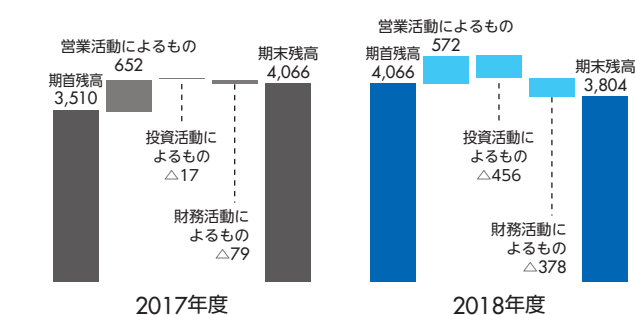
## ポイント解説

当期の売上高は、大手通信事業者向けのシステム検証案件、大手飲料事業者向けシステム再構築案件及び大手重工業メーカー向け開発案件などが順調に推移した結果、売上高は、17,761百万円（前期比6.6%増）となりました。利益面では事業の選択と集中を推し進めた効果もあり、営業利益823百万円（同26.7%増）、経常利益879百万円（同26.9%増）、当期純利益は586百万円（同26.1%増）と、前期と比較していずれも増加いたしました。

## キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	2018年度 2018年4月1日から 2019年3月31日まで	2017年度 2017年4月1日から 2018年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	572	652
投資活動によるキャッシュ・フロー	△456	△17
財務活動によるキャッシュ・フロー	△378	△79
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△262	555
現金及び現金同等物の期首残高	4,066	3,510
現金及び現金同等物の期末残高	3,804	4,066



## ポイント解説

当期末の現金及び現金同等物は前期末に比べ262百万円減少（前事業年度は555百万円の増加）し、3,804百万円となりました。

営業活動の結果得られた資金は572百万円（前期比12.2%減）で、主に収入では税引前当期純利益の計上874百万円であり、支出ではたな卸資産の増加108百万円、売掛金の増加106百万円、法人税等の支払による支出291百万円を反映したものであります。

投資活動の結果使用した資金は456百万円（前年同期に使用した資

金は17百万円）で、これは主に収入では有価証券の売却による収入202百万円、支出では有価証券の取得による支出609百万円によるものであります。

財務活動の結果使用した資金は378百万円（前期比373.4%増）で、これは長期借入金の返済による支出145百万円、自己株式の取得による支出131百万円、配当金の支払額101百万円によるものであります。

## 会社の概況

(2019年3月31日現在)

設立	1979年6月22日
資本金	1,180,897,000円
事業所	
本社	〒108-0022 東京都港区海岸3-22-23 MSCセンタービル TEL.03-6400-7000(代) FAX.03-6400-7900
新潟事業所	〒950-0911 新潟市中央区笹口2-10-1 ウィン21 TEL.025-241-1525 FAX.025-241-1536
関西事業所	〒541-0054 大阪市中央区南本町2-6-12 サンマリオンNBFタワー TEL.06-6282-1390 FAX.06-6282-1395

## 従業員

	事務職	技術職	計
男	97名	910名	1,007名
女	36名	199名	235名
計	133名	1,109名	1,242名

## 役員・執行役員

(2019年6月20日現在)

代表取締役社長	安藤 文男
代表取締役副社長	林 三樹雄
専務取締役	羽場 昌巳
常務取締役	宮南 研
取締役	犬飼 博文
社外取締役	本渡 章
社外取締役	佐藤 孝夫
社外取締役	黒木 彰子
常勤監査役	江藤 仁志
常勤監査役	豊田 一馬
社外監査役	石黒 義昭
社外監査役	田村 弘昭
社外監査役	池島 晃
執行役員	坂本 浩
執行役員	田中 孝二
執行役員	宮野 吏
執行役員	石井 嘉範
執行役員	中谷 彰宏

## 関係会社

(2019年6月20日現在)

・HISホールディングス株式会社

## 株式の状況

(2019年3月31日現在)

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式の総数	11,200,000株
株主数	4,049名

## 大株主

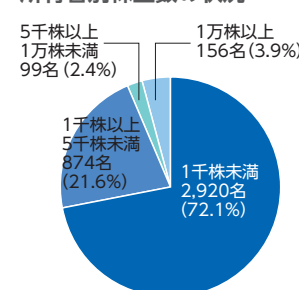
氏名又は名称	持株数 (株)	持株比率 (%)	
安藤 文男	1,515,000	15.21	現 当社代表取締役社長
I K I 持株会	1,006,193	10.10	
株式会社三菱UFJ銀行	214,360	2.15	
株式会社千葉興業銀行	203,200	2.04	
有限会社エム・ビ・エス	200,000	2.01	
三井倉庫ホールディングス株式会社	200,000	2.01	
春日 正好	160,000	1.61	現 当社最高顧問
MSIP CLIENT SECURITIES	110,000	1.10	
塚田 克巳	94,000	0.94	
亀井 慶紀	85,000	0.85	

(注) 1. 当社は、自己株式1,238,552株を保有しておりますが、上記株主からは除いております。  
2. 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

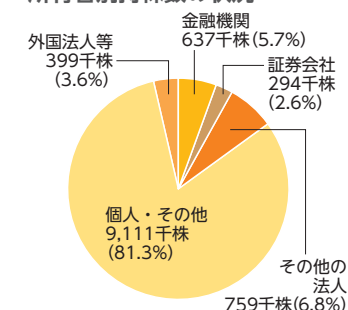
## 自己株式の取得、処分等及び保有状況

取得した株式	
普通株式	150,621株
取得価額の総額	131,092,550円
決算期末において保有する株式	
普通株式	1,238,552株

## 所有者別株主数の状況



## 所有者別持株数の状況



※自己株式1,238,552株は「個人・その他」に含めて記載しております。

## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月に開催
同総会議決権行使株主確定日	3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日(中間配当を行う場合)
その他の基準日	上記のほか必要ある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定いたします。
公告掲載URL	当社ホームページ <a href="https://www.ikic.co.jp/">https://www.ikic.co.jp/</a> に掲載いたします。 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。)
単元株式数	100株 (2018年4月1日付にて、1,000株から100株に変更いたしました)
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
(同連絡先)	東京都府中市日鋼町1番地1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場金融商品取引所	東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)

## (ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。